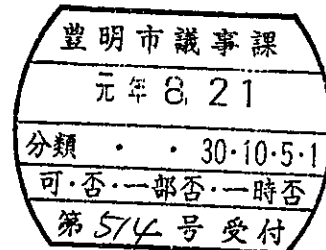


豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 ごとう 学

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年 7月 25日	福井県福井市タナカ農産グループ	<p>集団営農について</p> <p>※30 軒近い兼業農家が地域で協力し合って、職場での仕事と農業を両立しながら、有機・無農薬の先進的なコメ作りに成功していることが、豊明の今後の農業を考えるうえで参考になった。</p>
令和元年 7月 26日	兵庫県小野市	<p>小野市の行政経営について</p> <p>※民間出身の首長が、その経験を生かして、役所体質を市民目線で徹底的に改革している様子に驚かされた。市民サービスとコスト意識の高さ、組織運営の巧みさは、豊明市とは次元が異なると感じた。</p> <p>詳細別紙参照</p>

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

市民派の会視察報告書

後 藤 学

福井県福井市タナカ農産グループ (R.1.7.25 視察)

1. グループの概要

タナカ農産グループは、福井市東部の下東郷町に位置し、タナカ株式会社を中心とする複数の企業群の一部門である。企業群としては、蚊帳や「タナカの純水」、有機・無農薬米等の製造・販売のほか、福井県特産品の販売など多角的な経営を行っている。グループの設立は昭和 62 年で、以来、特別栽培米として生産した「ふくい東郷米」を全国の消費者と直接取引し好評を博している。

2. 視察テーマ「集団営農」について

- ・平成 26 年、コメの累計販売数 10 億食突破を機に、東郷地域の農業を次世代に引き継ぐ目的で、地区生産者の農地の集積・集約化を進め、任意団体「東郷くらぶ」を設立した。
- ・田中源美氏を中核的担い手として 32 名で構成。30 ヘクタールの農地の基盤整備や、田 1 筆当たり面積を 1 ヘクタールに拡大するなどし、大型農業機械の活用、種の直播などにより有機・無農薬米の栽培効率化、低コスト化に取り組んできた。
- ・メンバーはほとんどがサラリーマンで兼業農家。クラブへの入会金・出資金はなく、収益金は全員に面積割で全額配当し、経費も面積に応じて割り当てるが、労働による貢献度の差は清算する。協同作業には、高校生やお年寄りが参加することもある。
- ・農地の地代は 1 反 10,000 円、賃金は、オペレータ 1,500 円/時、並人足 1,000 円/時、水回り 500 円/時などと決められている。
- ・水稻栽培で赤字が出る場合は、水張休耕田にして農地の維持管理だけを行い、収益状況を見て稲作を再開する。

3. 視察の所感

稲作の田んぼを見学させてもらって、区画の大きさ、稼働中の大型機械、豊かな自然（鳥、小魚、カワニナなど）に驚かされた。有機・無農薬栽培を効率的に行っているのだ。

また、ほとんどが兼業農家なのに、地域の若者やお年寄りまで含めた助け合いのしくみの中で、先進的（伝統的？）ともいえる農業がおこなわれていることに、集落営農の可能性を感じた。

豊明でも、集落に良いリーダーがいれば、農業の再生・継続は可能と思う。

兵庫県小野市（R.1.7.26 視察）

1.市の概要

県の中南部に位置し、市の西部には加古川が流れ、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた田園都市。そろばんと家庭用刃物の産地として古くから栄えた。市独自で整備した約 150ha の工業団地が完売し、日本ハム（株）、神戸日野自動車（株）など 30 数社が進出し、現在は、県市共同事業で「ひょうご小野産業団地」の整備が進行中である。市域 92.94 km²に人口 48,580 人、財政力指数は 0.68、経常収支比率 89.4%である。

2.視察テーマ「行政経営」について

- ・小野市の行政経営は「現状打破と新たな創造」をスローガンに掲げ、意識改革、行政も経営、ゼロベースの発想、を理念として、①顧客満足度志向 ②成果主義 ③オンリーワン ④先手管理 を戦略の柱としている。
- ・顧客満足度志向では、市民＝顧客と捉え、市役所を市内最大のサービス産業の拠点と位置付け、県内初の市施設（除：市役所）全日開館と時間延長、高校までの医療費や 4・5 歳児の保育料無料化などを実施した。
- ・成果主義では、入札制度改善で落札率を 70%台まで低下させ、職員数を 32%削減して能力主義を本格導入。警察官 OB ら 15 人による安全パトロールで刑法犯認知件数を激減させ、150ha の工業団地の造成・完売等の実績をあげた。
- ・オンリーワンでは、小野らしさを追求する行政として、9 年カリキュラムに基づく小中一貫教育、小野まつりを 14 万人集客の県内有数のイベントに育成、高齢者の知識・経験等を活かす「エイジ・ルネッサンス・プロジェクト」などを推進した。
- ・先手管理では、地域医療の充実に神戸大学・三木市と連携して総合病院を建設・運営。県内初の「空き家の適正管理に関する条例」制定、全国初の「いじめ等防止条例」制定など、言われる前にやる行政を推進した。
- ・その他、先進事例に枚挙のいとまがないが、これらは、小野市独自の「方針管理制度(TQC)」が機能した結果であると考えられる。

3.視察の所感

小野市の数々の挑戦的な試みと実績は、民間出身の蓬萊市長の卓越した経営感覚とリーダーシップによるところが大きいと感じた。我が豊明市では、事業が民間委託されても職員は減らず、公共工事業者も甘く、入札率は 90%台後半と高止まりしているのが実情である。首長に期待できない以上、チェック役の議員が一層厳しい指摘をし、市民に訴えていく必要があることを痛感した。